

時間	
11:00 ~ 12:30	<p>. 21世紀の高等教育システム～学士課程の構築～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の認識～知識基盤社会の矛盾構造：ユニバーサル化 (1)知識基盤社会の要求 v s ユニバーサル化 (2)矛盾する両相の克服が「エクセレンス」 (3)改革理念としての学士課程教育 2. 現代の学生の実像 (1)根底に人間存在問題 (2)何のためのCARE and CUREか (3)現実の学生に対応すべし：大学存在様式を選択 3. 課題：バラバラな学生に対応して、意味がある教育、多様化：選択構造への傾斜 (1)自己実現～生き方への対応、キャリア教育 (2)人間の知的営みの本質に触れる取り組み (3)一人ひとりの学生への個別サービス (4)基本的視点：教育の過程 4. 学士課程教育のコンセプト (1)学生の自己教育が根幹、根底は自己責任 (2)生の現実と学びとの接点：意味の世界を知る (3)コモン・ベイシックのスキル、双方向的授業 (4)知的誠実性：学問共同体の自立的責任 5. 学士課程教育のアメリカモデル：リベラル・アーツ (1)基礎構造：major+minor+一般教育 (2)一つの学問とその方法論の根幹の重視 (3)専門科目の教養化：文脈的学習、豊かな専攻 <p style="text-align: right;">< 質疑応答 ></p>
<p>昼 食</p>	
13:30 ~ 15:00	<p>. 学士課程教育の実践例～特色GP事例のエッセンス～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学士課程教育における初年次教育（初年時経験） (1)学力差の補正のみではない：“大学”を知る初年時経験 (2)Retention（大学継続率）の向上：大学評価の基準 (3)プランニングの視点と手続手管 2. 初年次教育（初年時経験）への対応 (1)生き方支援：IIE自己実現プログラム (2)FTH（Free Talking Hour）の構造化 (3)自己表現・文章力の向上のための訓練 3. カリキュラムにおける対応 (1)知的探求の疑似体験を経て体系的な学習へ (2)到達度・能力別カリキュラムと授業科目コード (3)専門学部制は不適合：ゼロ免課程の必要 (4)「専門」を生き様に関連づけるものが「教養」 4. 特色GPに見るカリキュラム例 (1)理工カリキュラムのリベラル化、アーツ&サイエンス (2)高知工科大：スタディスキルズ 5. 学士課程教育の自己点検・評価の視点と質的保証 (1)教員が組織的に汗を流しているか (2)ICU学長要請：FD HANDBOOK (3)CLASS JOURNAL：各学生が「学習記録」を作成 (4)学習指導カルテ：ゼミ指導教授による記録化 (5)大学教育の小道具：教育・履修システムの進化 < 質疑応答 >
15:10 ~ 16:40	<p>. 学士課程のマネジメント～大学教育のガバナンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学教育のガバナンス (1)「大学」は社会的制度：歴史的・相対的に委託された自治 (2)教育プログラムと教員配置計画 (3)学長・学部長の機能と教学組織 2. 教員評価の基本と教員人事の活性化 (1)問われる大学教員の能力：本質直感の表現 (2)各大学に教員資格規程を：「私立大学教員倫理綱領」 (3)教員評価資料：それ自体が一つの学問的成果 (4)新任教員審査の要点と具体方策 (5)教員評価・昇進審査の要点と具体方策 (6)教員評価は管理という誤解：支援と報償 (7)教員任期制の導入・活用上の留意点 3. 大学法人経営と教授会運営 (1)大学経営の視点からの教授会の再定義 (2)理事会の役割：設置理念からの教授会の営為の評価・監督 (3)「学長独裁＝非民主的」か：民主的運営は必要、民主的経営は不可能 (4)理事会による学長指名：教学経営権限の負託 (5)大学の質担保と経営のアンビバレントを担う者が「学長」 (6)大学共同体の基盤と文化形成への参画 <p style="text-align: right;">< 質疑応答 ></p>